

小学校国語総括

4年（市）

◎話の中心に気をつけて聞くことや、目的に応じて構成を考えて書くことの正答率は、やや高い。

▼場面の移り変わりや登場人物の気持ちの変化を、叙述を基に想像しながら読むことに課題がある。

5年（市）

◎ことわざへの理解、漢字辞典の使い方の正答率が高く、全国平均を上回っている。

▼4年と同様に、登場人物の心情や場面の様子の読み取りの正答率が低く、切実な課題となっている。

▼段落相互の関係や文の効果に関する理解も低い。

6年（全国）

◎漢字を正しく読んだり書いたりすることについては、基礎学力の定着が見られる。

▼資料を読んで表現の工夫を捉えたり、目的に応じて内容を整理して書いたりするなど、表現力を問う問題の正答率が低い。

▼登場人物の行動を基にして場面の移り変わりを捉えたり、気持ちの変化を想像したりすることが全国正答率より低い。小学校では、文学的文章を読み取ることに大きな課題があるといえる。

質問紙から

・意見などを発表するとき、うまく伝わるように話の組み立てを工夫している

（全国21.4%、県20.9%、市19.4%）

・文章を読むとき、段落や話のまとめごとに内容を理解しながら読んでいる

（全国37.2%、県35.6%、市32.2%）

国語の学習は大切であると考えている児童の割合は、決して低くはない。話すことや聞くこと、書くことに苦手意識をもっていると思われる。特に、記述形式の問題では、すぐにあきらめてしまう点を改善する必要がある。

中学校国語総括

3年（全国）

◎漢字の読み書き、文学的文章や説明的文章の読解に関する問題では、正答率が高い。

▼指示された文字数の中で、具体例や理由、自分の考えなどを明らかにして適切に書くこと、要旨や意図に合わせて書きかえたり書き足したりすることなど、記述型の問題では正答率が低く、無回答も少なくない。

質問紙から

「読書は好きだ」と答え、1日2時間以上本を読む生徒は、全国の値に比べて高い。しかし、自分の考えを話したり、書いたりすることに苦手意識をもっており読書量とはつながっていない。同じ本を読んだ友達と感想を交流する場（授業）において、友達との認識のずれに気づいたり、友達の読解の深さに感心したりする経験を大切に、自分の考えが広がり、深まる楽しさを体験させる必要がある。

情報を取捨選択し、事実や考えを整理して書く力を伸ばす

小学校の課題

B 1三

インタビューのようすの内容をまとめて書く。

全国（34.7%）県（30.0%）市（24.1%）

B 2三

楽器の分担の決め方について図を基にして書く。

全国（41.6%）県（37.1%）市（36.4%）

中学校の課題

A 4

棒グラフの□部の変化の内容を適切に書く。

全国（67.6%）県（69.7%）市（69.0%）

B 2三

資料を参考にして2020年の日本の社会を予想し、その社会にどのように関わっていきたいか、自分の考えを書く。

全国（23.0%）県（23.4%）市（22.2%）

改善のヒント

【ポイント1】集めた情報を正しく読み取り、項目立てで分類する場を設定する

- ・資料の大切だと思う部分に線を引き、その理由をグループで交流する場をもつことで、資料を正しく読み取れるようにする。
- ・色つきの付箋や見出しごとのカードを活用することで、集めた情報を仲間分けしたり、必要なものを選び出したりする経験を積む。

【ポイント2】調べた事実と、自分の意見や感想を書き分けることを意識させる

- ・ポイント1で使用した付箋やメモにわかったことや感想を書き足せるように、ノートやワークシートを工夫し、自分の意見が明確になるように支援する。
- ・文末表現の仕方を例示することで、事実の述べ方と意見の述べ方を書き分けられるようにする。

【ポイント3】指定された条件で書く場を設定する

- ・資料や教材文から、引用する言葉や文を指定して書く場を設定することで、内容を整理したり伝えたいことを明確にしたりして書く力を伸ばす。
- ・文字数を制限して書かせることで、書くべき内容を整理し、精選して書くという意識を高める。

効果的に考えを伝えるための表現の工夫に着目する力を伸ばす

登場人物の相互関係や場面の情景、物語の展開を読む力を伸ばす

小学校の課題

A 5ー

コラムの中で筆者の読書体験が書いてあるまとまりを選択する。

全国（59.6％）県（56.1％）市（51.1％）

A 5ニ

コラムの中で筆者が引用している言葉を書きぬく。

全国（19.8％）県（14.9％）市（12.1％）

中学校の課題

A 7ニ

要望を適切に捉え、回答案の冒頭に一文を加える。

全国（66.4％）県（66.3％）市（66.2％）

B 1三

演奏するタイミングを選択し、その理由をノートの内容と結び付けて書く。

全国（56.2％）県（57.2％）市（56.2％）

小学校の課題

A 6

登場人物の関係についての説明として適切なものを選択する。

全国（67.5％）県（66.9％）市（62.2％）

B 3ー

〈絵3〉の場面が始まるまとまりとして適切なものを選択する。

全国（60.4％）県（57.7％）市（54.4％）

中学校の課題

B 3ニ

「あたりは……良かった。」の説明として適切なものを選択する。

全国（82.6％）県（82.3％）市（82.5％）

B 3三

文章の最後の一文があった方がよいかどうかについて、話の展開を取り上げて自分の考えを書く。

全国（31.1％）県（31.5％）市（33.6％）

改善のヒント

改善のヒント

【ポイント1】書き手の意図にあった表現かどうかを検討する場を設定する

- ・具体例や資料がある場合とない場合、同じ主張でも書き方や内容が違う場合などを比較できるように、発表の仕方、聞き方を工夫させる。

【ポイント2】見出しや表題などを考えて書く場を設定する

- ・新聞記事や広告、CMのキャッチコピー、パンフレットなどの資料から、よいと思う表現を自身の発表に生かす活動を通して、語彙を増やしたり、表現力を高めたりできるようにする。

※資料収集や活用指導については、司書教諭や学校図書館司書と連携を図るようにするとよい。

【ポイント3】学んだ表現を活用する場を設定する

- ・伝えたい思いを十分に高めたうえで、発表による交流の場をもつ。
- ・目的意識や相手意識をもたせることで、適切な表現を選択し、相手に伝わるように工夫しようとする意識を高める。

※子どもにとって、身近な話題や子どもが心から伝えたいという思いをもてる題材を選ぶとよい。（委員会・クラブ活動、総合的な学習などに関連するテーマ）

【ポイント1】何度も音読をする場を設定する

- ・ペア音読や役割読みなど、形態を変えて読み、細部の言葉や表現に着目できるようにする。
- ・「難語句は」「登場人物は」「場面が変わるところは」など、視点を与えて線を引きながら読ませることで、内容理解を深められるようにする。

※家庭学習だけでなく、授業時間内で可能な限り音読の場を確保するようにしたい。

【ポイント2】登場人物の関係やあらすじなどを整理してまとめる場を設定する

- ・絵カードの並べ替えや表などを活用してあらすじをまとめ、全体の構成を捉えられるようにする。
- ・主人公と対人物の関係を図式化できるようなワークシートやノートづくりを工夫することで、主人公の変容に影響を与えた出来事や言動に着目させる。

【ポイント3】作品の核となるところに着目できるように、子どもの読みの状況を丁寧につかむ

- ・山場における主人公の変容に着目させ、意見交換をする場を設定する。そこでは、「なぜそう考えたのか」「どの表現からそれがわかるのか」を大切に、表面的な読みで終わらないように支援する。

※発達段階や教材によっては、文章表現の効果に着目した課題を設定して話し合ったり、感想を書きとめたりするようにしたい。

小学校算数総括

4年（市）

- ◎同分母の分数、余りのない除法などの簡単な計算や正三角形、二等辺三角形などの図形の基本的な特徴についての理解度が高く、習熟が図られている。
- ▼数直線やはかり・巻き尺の目盛りを読む問題では、目盛り一つ分がいくつを表しているか捉えられず、正答率が低くなっている。
- ▼式と具体的な場面を結びつけて考えることに課題がある。

5年（市）

- ◎展開図を組み立てたときの立体図形について、平行な面や垂直な面、辺の長さに関する問題は、全国に比べて正答率が高くなっている。
- ▼3直角の角度や三角定規を組み合わせる角度を求める問題の正答率が低く、角度に関する学習内容が十分理解されていない。

6年（全国）

- ◎与えられた複数の条件に合う時間を求める問題の正答率が高く、時間について普段から日常生活と結びつけて考えることができているといえる。
- ▼割合に関する問題について、基準量と比較量、割合の関係を正しく捉えられず、正答率が低くなっている。
- ▼記述式の問題においては、言葉や式などを使って計算方法や理由を説明することに課題がある。

質問紙から

- ・算数の授業で公式やきまりを習うとき、その理由を理解するようにしている
(全国→46.6%, 県→45.0%, 市→43.5%)
 - ・算数の授業で問題の解き方や考え方がわかるようにノートに書いている
(全国→55.2%, 県→54.9%, 市→52.3%)
- 算数の学習は大切であると考える児童は71.8%と非常に高い。公式やきまりの理由を把握しノートに書く習慣を身につけることが大切である。

中学校数学総括

3年（全国）

- ◎等式の変形や条件に合った等式の選択など数量関係を捉えた問題がよくできている。
- ◎平行移動の作図は正答率が高く、よく理解できている。
- ▼反比例のグラフを選んだり、変域を求めたりする問題の正答率が全国に比べて低く、関数の基礎知識の定着が不十分である。
- ▼連続する整数の和や図形の証明・考察など、事柄が成り立つ理由を、構想を立て、根拠を明確にして説明する問題の正答率が低い。

質問紙から

「数学ができるようになりたい」と答える生徒は全国の値に比べて低いものの、多くの生徒がそう願っている。しかし、「将来、社会に出たときに役に立つと思う」の値は大変低い。身につけた数学の知識を生活に生かせるよう、公式やきまりの理由を理解し解き方や考え方を定着させることが大切である。

数学的概念や言葉・式の意味を正しく理解し、活用できる力を伸ばす

小学校の課題

- A 1(1)
8.9-0.78の差の概算の結果として、ふさわしい数値を選ぶ。
全国(71.0%) 県(62.7%) 市(62.7%)
- A 2(2)
6.79-0.8を計算する。
全国(69.5%) 県(63.2%) 市(64.6%)
- A 5(1)
円の中心と円周上の二点を頂点とする三角形が二等辺三角形になる理由として、最もふさわしい円の特徴を選ぶ。
全国(50.6%) 県(46.6%) 市(40.7%)

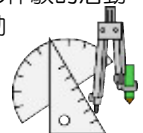
中学校の課題

- A 5(1)
直方体で、与えられた辺に垂直な面を書く。
全国(47.4%) 県(46.1%) 市(42.8%)
- A 10(1)
反比例のグラフを選ぶ。
全国(61.7%) 県(62.2%) 市(58.8%)
- A 13
二元一次方程式の解を座標とする点の集合として正しいものを選ぶ。
全国(37.9%) 県(36.5%) 市(36.0%)

改善のヒント

【ポイント1】具体物の操作や作図をする場を設定する

- ・日常生活と関連づけ具体的な問題場面をイメージさせるために、実感を伴った理解を図る場を設定する。
例：ものを作るなどの作業的な活動
実際に操作したり確かめたりする体験的活動
身の回りにある具体物を探す活動
実態や数量を調査する活動

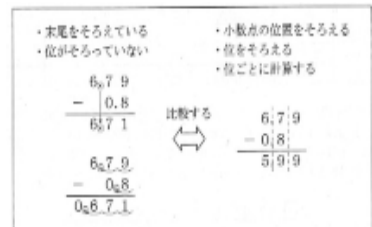


【ポイント2】「結果を見積もる」「求め方を考える」「結果を確かめる」活動を関連づける

- ・これまでの学習内容を基にして、どのような方法で解決していくか見通しをもたせたり、答えの見積もりを立てさせたりする。
- ・簡単な数に置き換えて数量関係を考えさせる。

【ポイント3】式の意味や計算の仕方を言葉や図で説明する。

- ・式や図、言葉に関連づけながら求め方を考えさせる。(アレイ図、面積図、線分図、数直線の活用)
- ・誤った答えを示して比較し、誤りを指摘させる。



**言葉や式、図、表、グラフなどを
関連付けて考える力を伸ばす**

小学校の課題

A 5(2)

円の中心と円周上の二点を頂点とする三角形の角の大きさを求める。

全国 (64.5%) 県 (61.6%) 市 (58.9%)

B 2(2)

20%増量した商品の内容量が480mLであるとき、増量前の内容量を求める式と答えを書く。

全国 (13.1%) 県 (14.2%) 市 (11.1%)

B 3(1)

正三角の性質を基に示された周の長さから辺の長さが等しくなる位置を求める。

全国 (32.5%) 県 (32.3%) 市 (31.7%)

中学校の課題

A 10(3)

比例のグラフから、 x の変域に対応する y の変域を求める。

全国 (49.3%) 県 (51.8%) 市 (46.1%)

B 3(1)

ポップアートカードを 90° に開いたとき、四角形が正方形になる場合の辺の長さを求める。

全国 (42.6%) 県 (43.8%) 市 (38.9%)

B 4(1)

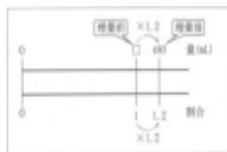
証明で用いた三角形の合同を根拠として、証明したこと以外に新たにわかることを選ぶ。

全国 (42.5%) 県 (42.7%) 市 (38.5%)

改善のヒント

【ポイント1】示された情報から関係を正しく捉え、図やグラフに表す

- ・基準数、比較数、割合の関係を数直線で表すなど、数量の関係を表現する活動を取り入れる。
- ・グラフや図などに情報を書き込むことで視覚的に捉えられるようにする。



出典：全国学力学習状況調査解説資料

【ポイント2】図形の構成を図形の性質と関連付けて考えさせる

- ・図形の指導では、作図などの活動を通して、図形のどのような性質を用いているかを確認していく。
- ・新たな性質を見い出すことができるようにするために、証明を書くだけでなく、証明を読む場面を設定する。

【ポイント3】日常的な事象を図形やグラフに着目して観察させその特徴を捉えられるようにする。

- ・図形の性質が、日常生活にどのように役立っているかを見つめ直す活動を取り入れる。
- ・操作や実験を通して、図形や数量関係など、その構成要素の関係を見出し、性質や活動を捉える場を設定する。

**根拠を明確にして、「理由」や「手順」
について説明できる力を伸ばす**

小学校の課題

B 1(3)

二組の道のりがそれぞれ等しくなる根拠として図形を見出し、その図形の性質を記述する。

全国 (27.7%) 県 (24.5%) 市 (22.7%)

B 5(1)

長方形の面積を2等分する考えを基に、分割された二つの図形の面積が等しくなる理由を記述する。

全国 (12.5%) 県 (12.1%) 市 (12.5%)

中学校の課題

B 2(2)

連続する3つの整数の和が中央の整数の3倍になる証明を完成する。

全国 (43.1%) 県 (46.4%) 市 (42.6%)

B 2(3)

連続する5つの整数の和について成り立つ事柄を表現する。

全国 (63.5%) 県 (65.8%) 市 (62.9%)

B 4(2)

正方形を平行四辺形に変えても、辺が等しくなることの証明を完成する。

全国 (49.6%) 県 (52.3%) 市 (45.8%)

B 5(2)

2回目の調査の方が落とし物の状況がよくなったとは言いきれないと主張することもできる理由を、グラフを基に説明する。

全国 (23.3%) 県 (25.3%) 市 (22.9%)

改善のヒント

【ポイント1】根拠となる事柄を過不足なく説明できるようにする

- ・問題に示された中から必要な条件を取り出し、根拠となる事柄をおさえるように普段から指導をする。
- ・根拠が不足した説明を示して「もっと詳しく言えませんか」と問いかけ、解決のために必要な根拠を満たす説明になっているか話し合わせる。

【ポイント2】事柄や説明を基に発展的に考え、数学的に表現できるようにする

- ・問題の条件を変えるなどして、見出した事柄の前提に当たる部分と、それによって説明される結論を明確にして表現する場面を設定する。
- ・発展的に考えられるようにするために、条件を変えてつくられた証明を読み、結論が成り立つために欠かせない条件や性質を捉えるようにする。

【ポイント3】授業形態を工夫し、全員が説明できるようにする

- ・ペア学習やグループ学習を取り入れて、多くの子が説明することができる場を設ける。
- ・きちんと説明している子の発表を参考にさせたり板書を手がかりにさせたりしながら自分の言葉で説明できるようにする。



小学校理科総括

4年（市）

◎太陽のよく当たる場所やホウセンカの育つ様子など、日常的に体験していることや観察などで実体験している問題がよくできている。

▼鉄とアルミニウムの見分け方について、他者の正しい考えを選ぶ問題の正答率が低く、正しい知識と科学的思考の定着が不十分である。

▼磁石のN極が示す方位、2つの磁石を近づけたときの様子など、磁石の性質に関わる問題の正答率が低い。

6年（全国）

◎星座の動きを捉えるために必要な情報を選び、考察する問題において、正答率が全国の値に比べて高くなっている。

▼顕微鏡の適切な操作方法を選ぶ問題の正答率が非常に低く、操作の定着が不十分である。

▼水が水蒸気になる現象についての問題では、正答率が全国の値に比べて低く、かつ無答率が高くなっており、科学的な言葉の理解や概念の定着が不十分である。

質問紙から

・「理科の勉強は好き」の割合は、全国より高くなっている。（全国→55.0%、県→56.0%、市→55.4%）

しかし、「理科室で観察や実験を週1回以上行う」の割合は、全国より約7%低くなっている。それにともない、「自分の予想をもとに観察や実験の計画を立てる」とことや「観察や実験の結果から、どのようなことがわかったのか考える」ことが、全国の値より低く、劣っていると考えられる。

中学校理科総括

3年（全国）

◎化学式や、電圧電流から抵抗を計算で求めるなどの基本的な知識が必要な問題がよくできている。

◎水上置換法では二酸化炭素の体積を正確に量れない理由を記述する問題の正答率が全国の値に比べて高く、実験内容についてよく理解できている。

▼雲のでき方について、その成因を説明した他者の考えを検討して、誤っているところを改善する問題の正答率が低く、考察する力が不十分である。

▼音の高さについて、仮説が正しい場合に得られる結果を予想して選ぶ問題の正答率が低く、科学的思考力が不十分である。

質問紙から

「理科室で観察や実験を週1回以上行う」や「理科の勉強は好き」は、全国の値と比べて高くなっている。しかし、「自分の予想をもとに観察や実験の計画を立てる」とことや「観察や実験の進め方や考え方が間違っていないかを振り返って考える」ことを高めていく必要がある。

予想・仮説をもとに 実験方法を構想できる力を伸ばす

小学校の課題

B 1(4)

電磁石と磁石が退け合うようにするための極の組み合わせを選ぶ。

全国（53.2%）県（51.5%）市（49.8%）

B 2(5)

インゲンマメとヒマワリの成長の様子や日光の当たり方から、適した栽培場所を選び、選んだわけを書く。

全国（44.2%）県（44.2%）市（40.4%）

中学校の課題

B 4(2)

ヒトの「目のレンズと網膜の距離はほぼ変わらない」という条件に合う方法を選ぶ。

全国（50.3%）県（51.2%）市（49.5%）

B 6(2)

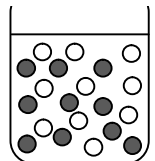
音の高さは、空気の部分の長さに関係しているという仮説が正しい場合に得られる結果を予想して選ぶ。

全国（29.9%）県（31.2%）市（28.8%）

改善のヒント

【ポイント1】観察・実験を行う前には、予想・仮説を立てさせる

- ・予想や仮説をノートに記述させる。
- ・言葉だけでなく、モデル図なども使うことで明確な予想・仮説を立てさせる。



- ・予想や仮説の根拠となる理由も書かせる。

例：×ヒマワリは畑の北側に植えるとよい。

○ヒマワリは大きく育ち、他の植物に当たる日光をさえぎるので、畑の北側に植えるとよい。

【ポイント2】予想・仮説を話し合う場を設定する

- ・多くの考え方に触れることで、科学的思考を伸ばしていく。
- ・話し合いをすることで、自分の予想・仮説を見直すことができ、検証するための効率的な実験方法を考えやすくする。



【ポイント3】実験方法を子どもたちに考えさせたり選ばせたりする

- ・予想・仮説を確かめるための実験方法を自ら考えさせたり、選んで決めさせたりする。

観察・実験結果から 考察できる力を伸ばす

小学校の課題

B 1 (5)

電磁石の働きを利用したふりが左右に等しくゆれる導線の巻き方やかん電池のつなぎ方について、当てはまるものを選ぶ。

全国 (66.2%) 県 (61.6%) 市 (58.7%)

B 3 (6)

水の温度と砂糖水が水にとける量との関係のグラフから、水の温度が下がったときに出てくる砂糖の量を選び、選んだだけを書く。

全国 (28.9%) 県 (28.9%) 市 (25.4%)

B 4 (1)

方位についての情報から、観察している方位を選ぶ。

全国 (41.0%) 県 (40.1%) 市 (37.6%)

中学校の課題

B 2 (3)

湿った空気が斜面に沿って上昇してできる雲について、その成因を説明した他者の考えを検討して、誤っているところを改善する。

全国 (14.5%) 県 (16.0%) 市 (12.9%)

改善のヒント

【ポイント1】実験結果は全員で共有する

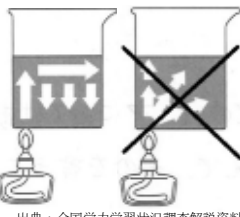
- 考察を行うためには、より多くの実験結果が必要である。

	0分	2分後	4分後	6分後	8分後
温度計A	25℃	37℃	45℃	52℃	58℃
温度計B	25℃	34℃	41℃	48℃	54℃
温度計C	25℃	30℃	38℃	45℃	53℃

【ポイント2】実験結果からきまりや法則を考えさせる

- 実験結果からわかったことや気づいたことをみんなで話し合う場を設定する。
- 実験結果から、多くの予想・仮説の間違ひを見い出させることが重要である。

例：紅茶の葉が下から上へ、上から下へ動くことから加熱部分から広がって温まるという仮説は間違っているといえる。



出典：全国学力学習状況調査解説資料

- 考察は、できるだけ簡潔な言葉でまとめていく。
例：砂糖は、水の温度が上がると溶ける量も増えていく。

【ポイント3】考察後に確認実験を行わせる

- 考察できまりや法則を見い出してから、確認実験を行うことで、知識・理解の定着につなげていく。

観察・実験の技能を高める

小学校の課題

A 2 (4)

顕微鏡の適切な操作方法を選ぶ。

全国 (33.9%) 県 (34.5%) 市 (33.9%)

A 3 (4)

示された器具（メスシリンダー）の名称を書く。

全国 (70.7%) 県 (76.9%) 市 (68.4%)

A 3 (5)

メスシリンダーで一定量の水をはかり取る適切な扱い方を選ぶ。

全国 (51.7%) 県 (54.4%) 市 (50.1%)

中学校の課題

A 1 (1)

濃度5%の塩化ナトリウム水溶液100gをつくるために必要な塩化ナトリウムと水の質量を求める。

全国 (45.0%) 県 (48.4%) 市 (45.6%)

A 2 (2)

天気図から風向を読み取り、その風向を示している風向計を選ぶ。

全国 (48.6%) 県 (47.5%) 市 (46.9%)

改善のヒント

【ポイント1】観察・実験をできるだけ多く行う

- 教科書の写真や映像だけでは十分である。実際に経験し、体感することがとても重要である。
- 植物の栽培など、時間や手間がかかるものは、観察の視点を示す。



【ポイント2】実験器具の正しい操作を身につけさせる

- 実験器具の正しい操作は、考えさせるのではなく、手本を見せながらしっかりと教えることが重要である。
- 実験器具が正しく使えるようになるまで、何度も練習をさせる。
- 顕微鏡操作などは、パフォーマンステストで確認していく必要もある。



【ポイント3】濃度など理解しづらい内容については演示実験を行いながら説明する

- 濃度の計算やオームの法則などは、できるようになるまで反復計算をさせることも必要である。
- 計算を伴う学習については、演示実験をしながら説明することで実感を持った理解へとつなげていく。

中学校社会総括

3年（市）

- ◎地理・歴史ともに全国の正答率を上回っており、地理では、正答率が60～70%になっている。
- ◎ほとんどの問題で全国正答率を上回っている。
- ▼歴史では、ことがらを年代順に並べる問題の正答率が50%以下のものがみられる。

＜ 地理分野 ＞

【日本の地域構成と地域的特色】

- ◎日本の地理的特徴を理解し、それを適切に表現する問題では、都道府県を取り巻く特徴を理解してそれぞれの地域に相応しい内容を選択できている。
- ▼都道府県と県庁所在地に関する問題では、都道府県と県庁所在地の名称が異なる都市についての理解が不十分で正答率が全国を下回っている。
- 【日本の諸地域】
- ◎日本の諸地域の地形の様子や用語を記述する問題について、よくできている。
- ▼日本の諸地域の人口や産業の様子について捉え、類似した都市を選ぶ問題では、全国正答率より低かった。
- ▼都市部の昼夜間の人口比率から、大都市とその周辺都市の関係を読み取る問題では、正答率が50%以下である。
- ▼地図の見方についての問題では、正答率が低く、地図の縮尺から、実際の距離を導き出す技能の習熟が不十分である。

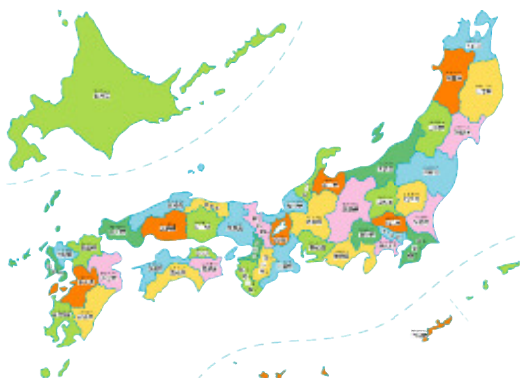
＜ 歴史分野 ＞

【近世の日本】

- ◎江戸時代の産業・文化に関わる問題では、正答率が高く全国より10%以上できている。
- ▼江戸時代の産業の発展と幕府政治に関わる問題では、正答率が26%である。

【近代の日本】

- ◎年表をもとに、幕末から明治時代の政治の仕組みが整っていく社会の変化について捉える問題は、正答率が高い。
- ▼近代の歴史の流れを捉え、順番に並べる問題では、正答率が非常に低い。



平成27年度 全国学力・学習状況

＜地理＞

地理的技能を身につけ、諸地域の特色を関連付けて考察する力を伸ばす

- ① 1
県名と県庁所在地が異なるものを2つ選ぶ。
全国（48%） 市（46%）
- ⑤ 5
中国四国地方の交通網の資料から間違いを選ぶ。
全国（44%） 市（49%）
- ⑦ 1
地図から実際歩いた距離を求める。
全国（48%） 市（46%）



改善のヒント

【ポイント1】地理的基礎・基本の定着を図る

- ・地図帳を開いて、確認する習慣をつける。
- ・地域の特産品や地形や気候などを結びつけて考える。
- ・世界地図・日本地図の作図 …フリーハンドでもノートに略図が描けるよう、時間を設定し練習する。
- ・地名コンテスト等を実施する。

例1：都道府県名・県庁所在地コンテスト

地形名（山地・山脈・平野・盆地）コンテスト

【ポイント2】調べ学習を基にした発表の場を設けることで、言語活動の充実を図る

- ・課題選択学習や班学習、個人発表、グループ発表と発達段階に応じ、学習形態を工夫する。

例1：ポスターセッションで「まるごと東北」

東北地方について「稲作」「地場産業」「伝統文化」の3つの項目に分け、グループで各々が1項目を担当し、調べ学習の成果を画用紙や模造紙に表現（ポスター）して発表を行う。発表者はブースに分かれ、視聴者はブースを回りながら、ポスターを見て質問をしたり、感想を述べたりする。

＜ポスターセッションの利点＞

全員が発表をする機会をもつと同時に、全員が他のグループの発表を主体的に聞きに行くことができる。

【ポイント3】地域ごとの特色を比較する視点をもたせることで、事象を他の地域に当てはめて考える力の育成を図る

- ・似たような特色を有する地域、あるいは、正反対の特色を有する地域を取り上げ、その関連性を問う課題解決学習を行う。

例1：香川県は、ため池の多い地域だが、全国には、似たような地域はほかにないのか。その地域では、どのような生産活動が行われているのか。



<歴史>

日本の歴史を各時代の伝統や文化の特色を踏まえて考える力を伸ばす

⑧ 2

寛政の改革の頃の社会の様子を紹介した文を選ぶ。
全国（24％） 市（26％）

⑧ 4

江戸時代の海外での出来事を選ぶ。
全国（35％） 市（35％）

⑨ 4

江戸幕府が1639年に来航を禁止した国を選ぶ。
全国（80％） 市（69％）

⑪ 1

日本の国際的な地位が向上したことを裏付ける事柄を選ぶ。

全国（40％） 市（44％）

⑫ 1

文化の流れを古い順に並べる。
全国（40％） 市（44％）

⑫ 2

開国、明治維新の流れを古い順に並べる。
全国（28％） 市（30％）



改善のヒント

【ポイント1】各時代の社会・経済・流通等に関すること、世界の動きを捉えるために、事象の原因について意識づける

- ・各時代の特色を捉えるために、印象に残った出来事や時代を動かすきっかけとなった出来事の原因と結果を子どもに意識させる。

例1：なぜ、寛政の改革が必要だったのか。

例2：関税自主権がないことが、なぜ、日本の近代化に足かせになっていたのか。

【ポイント2】各時代に起こった主な出来事に関連する人物、地図上の位置を理解する

- ・主な出来事がいつ、どこで、どのように起こったのかを歴史の流れの中で理解させる。

例1：単元のまとめとして、地図、年表を用いてその時代を振り返る学習を行う。



【ポイント3】学習のまとめ方を工夫して取り組む

- ・政治の動きとその背景にある社会や経済の変化、世界の動きと関連づけ、それぞれの時代を捉えさせる。
- 例1：単元のまとめとしてキーワードを提示し、その言葉を使ってその時代の様子を短い文で的確にまとめる。

<地理・歴史>

資料を活用して、地理的・歴史的事象を多面的に考察する力を伸ばす

<地理>

⑤ 4②

福岡市のような特徴をもつ東北の市を選ぶ。
全国（78％） 市（74％）

⑥ 3②

昼夜人口比率の低い県を選ぶ。
全国（39％） 市（46％）

<歴史>

⑪ 4

ポーツマス条約で問題になったことを10字程度の言葉で書く。

全国（31％） 市（36％）

改善のヒント

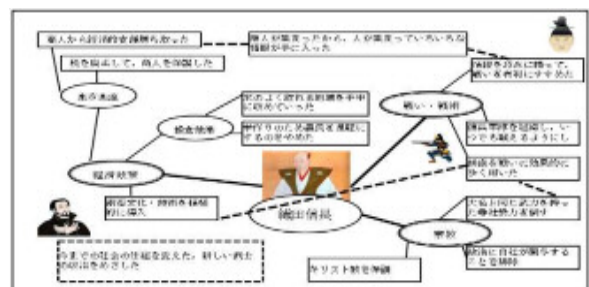
【ポイント1】問題解決的な学習を取り入れて、思考力・判断力・表現力を高める

- ・具体物や資料などから問題意識を掘り起こし、地域の特色に目を向けたり、歴史の事実の背景を探ったりする学習を構想する。
- ・調べ学習の実施 …レポート形式・新聞形式・パンフレット形式等、様々な形式でまとめ学習を行う。



【ポイント2】単元のまとめを図式化して発表することで、社会認識の育成を図る

- ・デザインマップ…学習内容に関する社会的事象を因果関係を考えながら図式化し、さらに、説明を加えて単元全体をまとめる。（ウェビング+イラストマップ）



【ポイント3】複数の資料を提示し、分析したり比較したりする学習を積極的に取り入れる

- ・教科書や資料集から、時代を多面的にとらえられるように複数資料を用意し、それらの中から読み取れたことを交流し合う。
- ・ある時代を新聞にまとめる活動をする際に、時代の変化の様子がわかる資料を選び、自分が分析したことを説明する学習を行う。
- ・各地域の特産物・産業・気候・人口のグラフや表を比較・分析する活動から特色を捉える学習を行う。

中学校英語総括

3年（市テスト）

『聞く』

◎すべての問題について、正答率は全国を上回っている。

▼絵に示された情報を基に与えられた指示に従って、適切に答えることができるかどうか問う問題について弱い。

『読む』

◎まとまった量の文章や英文のメモ、スピーチ原稿の内容を読み取る問題の正答率は全国を上回った。

▼基本的な文型や表現を使った単文の意味を正しく理解できるかどうかを問う問題が弱い。

『話す』

◎電話での会話やスピーチに関する問題のすべての正答率が全国を上回った。

▼自分の伝えたいことが相手によくわかるように話すために、意味のまとまりを考えて適切な箇所で文を区切ることを苦手としている。

『書く』

◎正答率は全国に比べて6.1%上回っている。

◎単語の綴りを正しく覚えているかどうかをみる問題の正答率が高い。

▼日本語の意味を表す英文を完成させるために、成句や前置詞を書く問題が弱い。

与えられた情報をもとに内容を正しく理解する力を伸ばす（聞くこと・読むこと）

中学校の課題

4 1・2（放送問題）

絵に示された情報を基に、与えられた指示に従って、選択肢の中から適切に選ぶ。

全国（22%） 市（28%）

12 1・2

基本的な文型や表現を使った英文の意味を正しく理解し、選択肢の中から適切に選ぶ。

全国（47%） 市（46%）

（例題）次の英文の意味を最もよく表している日本語を、それぞれア～エの中から1つ選びなさい。

You don't have to cook dinner tonight.

ア あなたは今夜、夕食を作らなければならない。

イ あなたは今夜、夕食を作ってはいけない。

ウ あなたは今夜、夕食を食べない。

エ あなたは今夜、夕食を作らなくてもよい。

改善のヒント

【ポイント1】提示された状況を理解し、必要な情報を選択的に聞き取る練習を設定する

・普段から状況を説明する文を入れたり否定文使ったりして、単語だけから類推しない練習をすることが必要である。また、絵を見て、状況を相手に説明する練習をするとよい。

【ポイント2】意味や用法が似ている語句や複数の意味や用法のある単語は特に注意して指導する

・ must と have to の意味が似ているため、don't have to（しなくてもよい）、mustn't（してはいけない）のように否定文になったときの意味の違いがあいまいになってしまうことがある。また have のように多くの意味や用法をもつ単語については、パターンプラクティスの後、場面や状況に応じて実際に使い分ける表現活動を行うとよい。

・ like のように動詞と前置詞がある語の誤訳も多い。I like dogs. など動詞として使われている文と比較しながら、This is like a ball.（×これはボールが好きです）のような誤訳に注意させたい。

相手がよくわかるように区切りや強弱を意識して伝える力を伸ばす（話すこと）

正しい語を用いて英文を書く力を伸ばす（書くこと）

中学校の課題

6 3

質問に答えるときに、どの語を強く発音したらよく伝わるか選ぶ。全国（21%） 市（20%）

（例題）Aの質問にBのように答えるとする、どの単語を特に強く発音したらよいですか。それぞれア～エの中から1つずつ選びなさい。

A : When will you go to Canada?

B : I ア will イ go ウ there in エ March.

7 1

意味のまとまりを考えて、適切に区切る場所を選ぶ。
全国（72%） 市（68%）

（例題）次の文を1か所だけ区切って話すとするとどこで区切るのが最も適切ですか。それぞれア～エの中から1つずつ選びなさい。

Playing ア the guitar イ with you ウ is interesting エ for me.

改善のヒント

【ポイント1】授業での英問英答場で、答えの中心になる部分を意識して強く発音させる

- コミュニケーション活動のQ&Aや音読練習の場面において、答えの中心になる部分（単語）を意識して発話させたり、実際に強調して伝わったかどうかを確認したりすることが必要である。



【ポイント2】意味のまとまりで区切って読む練習を取り入れる

- 意味のまとまりで区切る練習が必要である。使われる語数が多い英文では、文の句切れに／（スラッシュ）を入れさせたり、意味のまとまりを意識した音読練習をさせたりして、読み方や読み取り方を習慣づけていくことを積極的に行う。

中学校の課題

14 2・3

英文に合った適切な表現を選ぶ。
全国（45%） 市（39%）

（例題）日本語に合うようにあてはまる語を選びなさい。ケ빈はとても上手に日本語を話します。

Kevin speaks Japanese very ().

ア much イ good ウ well エ often

16 2

英文の内容から正しい前置詞を選ぶ。
全国（20%） 市（30%）

（例題）日本語に合うようにあてはまる語を選びなさい。私は日曜日にテニスをします。

I play tennis () Sunday.

ア on イ at ウ for エ by

改善のヒント

【ポイント1】授業の中で音声的に習得させる

- Thank you very much.やI like soccer very much.などの表現は、音声的に自然に習得していることが多い。very well（とても上手に）やvery good（とてもよい）も音声的にひとまとまりの語句として習得させることが必要である。

I get up at seven
every morning

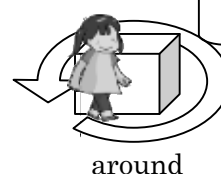
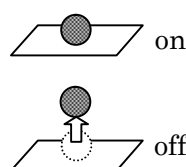


【ポイント2】単語は、文の中でどういう意味でどういう働きをするかを考えて使わせる

- 前置詞の習熟には、at seven, on the desk, for three hours など、ひとまとまりの語句として活用したり、視覚的な資料を用いた指導や動作を加えた指導を加えたりすると効果的である。

（例）絵を用いて

（例）動作で



Walk around
OO, please!



学力・体力の向上について

学力の向上についての取り組み

現在、平成27年度 全国学力・学習状況調査・豊橋市小中学校学力検査の結果を受けて、指導改善を図るためにまとめの冊子を作り、実際に担任教師に問題を解いてもらっている。これを受け、各学校では具体的な方法を考え、授業改善に取り組んでもらう。さらに、学校教育課では、次のような取り組みを行い、学力の向上につなげていこうと考えている。

○ 学力向上について

＜平成28年度予算 合計 37,000 千円＞

① 小中一貫教育の導入

＜予算：教科非常勤 10 人 23,525 千円＞

- ・内容：小中9年間に於いて、つながりのある系統的な教育を導入する。
- ・方法：H27 施設併設型である前芝小中で系統的な教育課程を検討中（H28 導入）
H27～H29 施設分離型として高豊中（連携校：富士見小、協力校：豊南小・高根小）に対し研究委嘱を行い、確かな学力育成に向けた研究を行う。
※H28から小5，6年に教科担任制実施拡大（理科、音楽、図工等）

② 学力検査結果活用のための研修会

＜予算：講師謝礼 12 人 120 千円＞

- ・内容：調査結果を分析する専門家を講師とした研修会を実施し、各学校における指導方法の改善・充実を図る。
- ・方法：分析した検査結果を専門講師がブロック研修会で指導する。
市教委分析シートの改良、県教委作成の「学力・学習状況充実プラン」の活用推進により、学級担任の支援充実を図る。

③ 授業づくり手引書の発刊

＜予算：手引書 2,000 冊 242 千円＞

- ・内容：学級経営、指導方法の工夫や教材づくりなどをまとめた手引書を編集・発刊し、日々の授業づくりや校内研修等に活用することで、質の高い授業を保障する。
- ・方法：手引書を手元に置き、授業づくりの基盤とする。

④ 生活・学習習慣の定着

＜予算：学力（小4.5.6 中3）・知能（小5 中2）・生活（小4.5年）13,113 千円＞

- ・内容：従来実施してきた市独自の学力検査に加え、学力と相関が高い生活習慣や学習習慣の実態を調査し、指導に生かす。
- ・方法：学校では、分析結果を踏まえ、授業改善を行う。
分析結果を保護者にも還元することにより、家庭での生活・学習習慣改善を依頼する。
家庭：宿題については、終了した確認をするよう保護者に依頼する。
学校：宿題の提出状況を各自がとらえられるような表を用意する。

⑤ 地域による学習サポート ※別紙「土曜日の教育活動モデル事業」参照

○ 体力向上について

① 体づくり運動の推進

- ・内容：各学校において、体育の授業開始10分間は、体づくり運動を実施する。
- ・方法：体育研究部がすでに作っている体づくり運動の流れを体育主任会の研修で取り組み、校長会と体育研究部を通して、周知する。